

沖縄戦76年

いばら 荊の伝承

1面から続く

1フイート運動の会から追い出された上原さんは沖縄戦に関するノンフィクションを地元紙に連載したり、地元テレビ局の番組づくりに協力したりと、幅広く活動した。

しかし沖縄戦で慶良間諸島の住民が集団自決した問題をめぐり、革新派などが主張する日本軍命令説を否定すると、仕事の依頼が急減する。平成19年には軍命令はなかったと連載中の新聞に書こうとして掲載を拒否され、裁判闘争に発展。上原さんにとって満足のいく判決だったが、以後は仕事を失った。

一方、会は順調に活動を続けた。計約11万回、約50時間分の

フィルムを収集。記録映画を製作して各地で上映した。元事務局次長で歌手のまよなかしんやさん(73)は「この会が多くの県民から支持され、沖縄における反戦平和運動を牽引したのは紛れもない事実」と話す。

会は、発足30年を迎えた25年に解散する。前年末に開かれた解散会見には、多くのメディアが集まった。そこで「事件」が起きる。上原さんが乗り込んできて会の役員らを罵倒し、大混乱に陥ったのだ。その様子がインターネットの動画に流れ、一部で話題となったが、翌日の新聞などで報じられることはなかった。

今月、上原さんをたずねた。資料が散乱する部屋の中で、らんと目を光らせていた。

「ぼくに紙をくれ。ゆがめられた沖縄戦の真実を書いてみるから」

反戦運動に不都合な作家は、声を振り絞った。